

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

過剰流動性相場が再来!? 狙える銘柄は?



先週は、日銀の金融緩和発動が「反騰の狼煙」となり、後半のSQ算出、米雇用統計から週明けの祝日休場の各イベントも消化。今後は米企業決算を見極めつつ、国内企業の決算発表を見越して「業績注視」の姿勢を深めていくだろう。

日銀の「ゼロ金利政策」再導入は、景気回復の腰折れ懸念、過度の円高に対抗するのが主目的としても、株式相場の市場参加者にとつては「過剰流動性相場」の再来を期待する向きが強いのではないだろうか。

銀行や証券、不動産など直接的な影響のある「金融緩和関連」が賑わいを見せたが、今回では日本だけではなく「日米両国」の金融緩和が見込まれている。基軸通貨となるドル・円の価値下落を見越して、インフレに直結する商品市況の活躍も続いているのも見逃せないところだ。強気を通すならば、市況関連が狙い目となるだろう。具体的な銘柄については、弊社に直接問い合わせてほしい。

さて、前述していたように、マーケットでは来週末から本格化する中間決算シーズンを前に、業績注視の姿勢を深めていく局面でもある。緩和策発動でファンダメンタルズ好転を先取りする動きが強まりそうだが、企業側としても「円高」「景気の先行き懸念」が色濃く反映された集計結果から、緩和策発動といえど「強気」に転じ難いのではないだろうか。過度の「業績先取りムード」には警鐘を鳴らしたい。